

10. CP苗から開花までのスケジュール概要(作型①～⑦)

【凡例】○：新芽 ○：完成したバルブ ●：花芽 ×：芽かき

年次	1年目 (4年目)												2年目												3年目												備考 (適応品種等)	月別表 ページ	
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12			
春	作型①	○												×○× ○ ×												× ○ ○ ×												バルブ完成の早さが普通(1年程度)の品種 1-2-2 仕立もこれに準じる	付表 2～3
	1-2-3 仕立て(山上げ) 3年弱で年内出荷	CP 苗 3号鉢												4号鉢												6号開花鉢													
苗	作型②	4年目												<1年目～2年目前半は同上>												× ○ ○ ×												遅咲き(春出し向き)の品種等 1-2-2 仕立もこれに準じる	付表 2～3
	1-2-3 仕立て 約3年で3月出荷	出荷																								× 最終芽かき ○ ○ ○ ○ ○ × 開花リト発生 3芽に整理													
苗	作型③	○												×○× ○ ○ ×												× ○ ○ ×												バルブの完成が早い(1年未満)品種 1-1-2-2 仕立てもこの仕立てに準じる	付表 2～3
	1-1-2-3 仕立て(山上げ) 3年弱で年内出荷	CP 苗 3号鉢												4号鉢												6号開花鉢													
秋	作型④	○												×○× ×○× ○ ×												× ○ ○ ×												生育と花立ちが良い品種等	付表 4～6
	1-2 仕立て(山上げ) 2年強で年内出荷	CP 苗 3号鉢												4号鉢												6号開花鉢													
苗	作型⑤													×○× ○ ○ ×												× ○ ○ ×												芽吹きやバルブ完成が早く花立ちがよい品種 1-2-2 仕立てもこれに準じる	付表 6～7
	1-1-2 仕立て(山上げ) 2年強で年内出荷													4号鉢												6号開花鉢													
苗	作型⑥	4年目												2年目→												× ○ ○ ×												バルブ完成が遅い(1年を超える)品種 1-2-2 仕立てもこれに準じる	付表 4 付表 6～7
	1-2-3 仕立て(山上げ) 3年強で年内出荷	3芽に整理 芽かき 花芽発生												発生 4号鉢												総かき 1次 2芽に整理 リト発生 6号開花鉢													
苗	作型⑦	4年目												2年目→												× ○ ○ ×												バルブ完成の早さが普通(1年程度)の品種 1-1-2-2 仕立ても準じる	付表 4 付表 6～7
	1-1-2-3 仕立て(山上げ) 3年強で年内出荷	3芽に整理 芽かき 花芽発生												4号鉢												芽かき 総かき 1次リト 1芽に整理 2次リト 2芽に整理 最終芽かき 開花リト発生 6号開花鉢													

11. 月別育苗管理表（3号鉢から4.5号鉢まで）

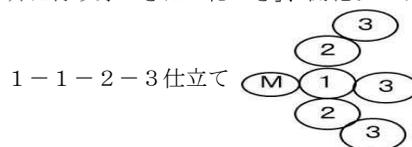
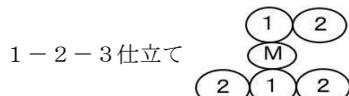
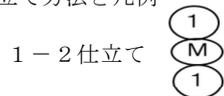
春苗－3号鉢 作型 ① ② ③ [1-2-3(or1-2-2)、1-1-2-3(or1-1-2-2)仕立て] 3年前後で年内または3月出荷

鉢サイズ：3号鉢（または7.5cmロングポット）

項目	月	2月（1～3月）	3月	4月	5月	6月	7月	8月
鉢の種類と植え込み資材		3号鉢等に細粒パークで植え込む						根張りを見て4号鉢等へ中粒パークで鉢替
施肥 (マグアンプK大粒 1.5g＝約10粒)		マグアンプKの大粒1.5g/鉢をパークに混入して植え、ロングトール313-180日を1鉢5g程度置肥する。	定期的に流出水のEC等をチェックして、肥料の流出状況を把握する。 流出水のECが1.5ms/cmを上回るようであれば、灌水量や灌水頻度を高めて濃度障害を回避する。 流出水のECが常に0.4ms/cmを下回るようになれば、有機質置肥、緩効性被覆化成肥料、液肥を追肥する。					
灌水 (約15分間灌水 → 10a当たり約10t)		2日に1回(曇雨天除)朝1鉢当たり80ml程度頭上灌水	毎日朝灌水1鉢当たり80ml程度頭上灌水	同左	同左	同左	同左	同左
湿度		70～90%	70～90%	60～85%	60～85%			
温度管理	昼温	25～27℃	25～27℃	25～27℃	夜温が確保できるようになったらビニール被覆を外す(下旬頃)。			
	夜温	18℃加温	18℃加温	18℃加温				
光線管理 ・最高照度		遮光率50%程度のネット被覆(ダイヤネット#610等)(ハウス内で遮光率70～80%) ・ハウス内2万ルクス程度	同左 ・ハウス内3万ルクス程度	同左	同左 (ビニールを除去すると室内遮光率は60%程度に低下する。) ・ハウス内5万ルクス前後	同左	同左 (日焼けしやすい品種等は、さらに黒防風ネットを被覆する)	同左 (同左)
鉢間隔		鉢間隔をできるだけ広くとる。					山上げ後に鉢間隔を広げる	
株の状態		 マイクロハルバのみ						

注1) 芽かき等の用語：新芽のうち、残して育てる芽をリードと呼称し、鉢内一斉に行う芽かきは「総かき」、開花リードを出すための芽かきは「最終芽かき」とした。

2) 主な仕立て方法と凡例



メリクロン (M)

2次リード (2)

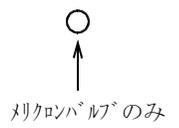
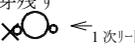
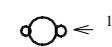
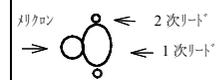
1次リード (1)

3次リード (3)

春苗 - 4号鉢

作型 ① ② ③ [1-2-3(or1-2-2)、1-1-2-3(or1-2-2)仕立て] 3年前後で年内または3月出荷

鉢サイズ：4号鉢 (または12cmロングポット)

項目	月	8月(7~8月)	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
鉢の種類と植え込み資材		4号鉢等に中粒バークで鉢替え							6号開花鉢へバークで鉢替えする。
施肥 (マグアンプK大粒 3.0g = 約20粒)		マグアンプKの大粒 3.0g/鉢をバークに混入して植え、ロングポット 313-180日を1鉢 8~10g置肥する。	定期的に流出水のEC等をチェックして、肥料の流出状況を把握する。 流出水のECが1.5ms/cmを上回るようであれば、灌水量や灌水頻度を高めて濃度障害を回避する。 流出水のECが常に0.4ms/cmを下回るようになれば、有機質置肥、緩効性被覆化成肥料、液肥を追肥する。						
灌水 (約15分間灌水 → 10a当たり約10t)		毎日朝灌水(曇雨天除) 1鉢当たり 140~180ml 程度頭上灌水	同左	同左	2日に1回(曇雨天除) 朝、1鉢当たり 140~180ml 程度頭上灌水	同左	同左	同左	毎日朝灌水(曇雨天除) 1鉢当たり 140~180ml 程度頭上灌水
湿度				60~80%	60~80%	60~80%	60~80%	60~80%	60~80%
温度管理	昼温			気温が低下したら遮光ネットを除去しビニールを被覆する(下旬頃)。	25~27℃	25~27℃	25~27℃	25~27℃	25~27℃
	夜温				15~18℃加温	15~18℃加温	12~15℃加温	12~15℃加温	12~15℃加温
光線管理 ・最高照度		遮光率 50%程度のネット被覆(タテネット # 610 等)(ハウス内で遮光率 60%) ・ハウス内 5万ルクス程度	同左	同左					
鉢間隔		鉢間隔をできるだけ広くとる。	山下げ前に鉢を詰める			鉢物栽培では出荷後鉢間隔を広げる			
芽かきとリードの仕立て方 (株の状態)		 メリクロンハルブのみ	9月上旬 ・発生した新芽は全てかき取る(総かき)。 		(リードの弱い品種等は右の整芽を10月中旬から11月上旬に行って生長を促す)	12~1月(芽の整理) 1-2-3仕立ては止まっているハルブの新芽を全てかき取る  1-1-2-3仕立ては生育の止まったハルブの新芽を1芽残す 			2~4月(芽の整理) 1-2-3: メリクロンハルブからの新芽を2芽残す。  1-1-2-3: 1次リードからの新芽を2芽残す。 メリクロン 

秋苗－3号鉢 作型 ④ ⑥ ⑦ [1-2、1-2-3(or1-2-2)、1-1-2-3(or1-1-2-2)仕立て] 2年強～3年強で年内出荷
鉢サイズ：3号鉢（または7.5cm ロングポット）

項目	月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
鉢の種類と植え込み資材		3号鉢等に細粒バークで植え込む						根張りを見て4号鉢等へ中粒バークで鉢替	1-2仕立ては3月、その他は4月鉢替え
施肥 (マグアンプK大粒 1.5g＝約10粒)		マグアンプKの大粒1.5g/鉢をバークに混入して植え、ロングポット 313-180日を1鉢5g置肥する。	定期的に流出水のEC等をチェックして、肥料の流出状況を把握する。 流出水のECが1.5ms/cmを上回るようであれば、灌水量や灌水頻度を高めて濃度障害を回避する。 流出水のECが常に0.4ms/cmを下回るようになれば、有機質置肥、緩効性被覆化成肥料、液肥を追肥する。						
灌水 (約15分間灌水 → 10a当たり約10t)		毎日朝灌水(曇雨天除) 1鉢当たり80ml程度頭上灌水	同左	2日に1回(曇雨天除) 朝、1鉢当たり80ml程度頭上灌水	同左	同左	同左	毎日朝灌水(曇雨天除) 1鉢当たり80ml程度頭上灌水	同左
湿度			70～90%	60～80%	60～80%	60～80%	60～80%	60～80%	60～80%
温度管理	昼温		気温が低下したらビニールを被覆し、遮光ネットを張り替える(下旬頃)。	25～27℃	25～27℃	25～27℃	25～27℃	25～27℃	25～27℃
	夜温			18℃加温	18℃加温	18℃加温	18℃加温	18℃加温	18℃加温
光線管理 ・最高照度		遮光率70%程度のネット被覆(#610+YMネット等)(ハウス内で遮光率85%) ・ハウス内2万ルクス程度	同左 ・ハウス内2万ルクス程度	遮光率40%程度のネット被覆(ハウス内で遮光率50%程度) ・ハウス内3～4万ルクス程度	同左	同左	同左	同左	同左
鉢間隔		山下げ前に鉢間隔を詰める			鉢物では出荷後に鉢間隔を広げる				
株の状態		○ ↑ マイクロバルブのみ							○ ↑ マイクロバルブのみ

秋苗A-4号鉢 作型④ [1-2仕立て] 2年強で年内出荷
鉢サイズ：4号鉢（または12cmロングポット）

項目	月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
鉢の種類と植え込み資材		4号鉢等に中粒バークで鉢替え				6号開花鉢へバークで鉢替え(6～8月)。		
施肥 (マグアンプK大粒 3.0g＝約20粒)		マグアンプKの大粒3.0g/鉢をバークに混入して植え、ロングポット313-180日を1鉢8～10g置肥する。	定期的に流出水のEC等をチェックして、肥料の流出状況を把握する。 流出水のECが1.5ms/cmを上回るようであれば、灌水量や灌水頻度を高めて濃度障害を回避する。 流出水のECが常に0.4ms/cmを下回るようになれば、有機質置肥、緩効性被覆化成肥料、液肥を追肥する。					
灌水 (約15分間灌水 → 10a当たり約10t)		毎日朝灌水(曇雨天除) 1鉢当たり140～180ml程度頭上灌水	同左	同左	同左	同左	同左	同左
湿度		60～80%	60～80%	60～80%				
温度管理	昼温	26～28℃	25～27℃	夜温が確保できるようになったらビニール被覆を外す(下旬頃)。				
	夜温	18℃加温	18℃加温					
光線管理 ・最高照度		遮光率40%程度のネット被覆(ハウス内で遮光率60～70%程度) ・ハウス内3～4万ルクス程度	同左	ビニール除去時に遮光率50%程度のネット被覆(タイネット#610等)(ハウス内で遮光率60%) ・ハウス内5万ルクス前後	同左	同左	同左	同左
鉢間隔		鉢間隔をできるだけ広くとる。				山上げ後に鉢間隔を広げる		山下げ前に鉢間隔を詰める
芽かきとリードの仕立て方 (株の状態)		 マルチンバルブのみ				・発生した新芽は全てかき取る 		・発生した新芽は全てかき取る(下旬) 

秋苗B-4号鉢

作型 ⑥ ⑦

[1-2-3(or1-2-2)、1-1-2-3(or1-1-2-2)仕立て] 2年強～3年強で年内出荷

No. 1

鉢サイズ：4号鉢（または12cmロングポット）

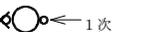
項目	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
鉢の種類と植え込み資材		4号鉢等に中粒パーカで鉢替							
施肥 (マグアンプK大粒 3.0g = 約20粒)		マグアンプKの大粒 3.0g/鉢をパーカに混入して植え、ロングポット 313-180日を1鉢 8～10g置肥する。	定期的に流出水のEC等をチェックして、肥料の流出状況を把握する。 流出水のECが1.5ms/cmを上回るようであれば、灌水量や灌水頻度を高めて濃度障害を回避する。 流出水のECが常に0.4ms/cmを下回るようになれば、有機質置肥、緩効性被覆化成肥料、液肥を追肥する。 ※9月に生育やECを見て、ロングポット 313-180日 8～10gを追肥として施用する。						
灌水 (約15分間灌水 → 10a当たり約10t)		毎日朝灌水(曇雨天除) 1鉢当たり 140～180ml 程度頭上灌水	同左	同左	同左	同左	同左	同左	2日に1回(曇雨天除) 朝、1鉢当たり 140～180ml 程度頭上灌水
湿度		60～80%							60～80%
温度管理	昼温	25～27℃	夜温が確保できるようになったらビニール被覆を外す(下旬頃)。					気温が低下したら遮光ネットを除去しビニールを被覆する(下旬頃)。	26～27℃ ----- 15～18℃加温
	夜温	18℃加温							
光線管理 ・最高照度		遮光率40%程度のネット被覆(ハウス内で遮光率60～70%程度) ・ハウス内3～4万ルクス程度	ビニール除去時に遮光率50%程度のネット被覆(ガイネット#610等)(ハウス内で遮光率60%) ・ハウス内5万ルクス前後	同左	同左	同左	同左	同左	無遮光
鉢間隔		鉢間隔をできるだけ広くとる。			山上げ後に鉢間隔を広げる			山下げ前に鉢間隔を詰める	
芽かきとリードの仕立て方 (株の状態)		 マルチンバルブのみ			・発生した新芽は全てかき取る 		8月下旬～9月上旬 1-1-2-3仕立て は発生した新芽を全てかき取る(総かき) 	10月 1-2-3仕立て は発生した新芽を全てかき取る(総かき) 	(リードの弱い品種等は芽の整理を10月中旬から11月上旬に行っておく)

秋苗B-4号鉢

作型 ⑥ ⑦ [1-2-3(or1-2-2)、1-1-2-3(or1-1-2-2)仕立て] 2年強～3年強で年内出荷

No. 2

鉢サイズ：4号鉢（または12cmロングポット）

項目		12月	1月	2月
鉢の種類と植え込み資材				1～2月に6号開花鉢へパークで鉢替
施肥		定期的に流出水のEC等をチェックして、肥料の流出状況を把握する。 流出水のECが1.5ms/cmを上回るようであれば、灌水量や灌水頻度を高めて濃度障害を回避する。 流出水のECが常に0.4ms/cmを下回るようになれば、有機質置肥、緩効性被覆化成肥料、液肥を追肥する。		
灌水 (約15分間灌水 → 10a当たり約10t)		2日に1回(曇雨天除)朝、1鉢当たり140～180ml程度頭上灌水	同左	同左
湿度		60～80%	60～80%	60～80%
温度管理	昼温	25～27℃	25～27℃	25～27℃
	夜温	15～18℃加温	12～15℃加温	12～15℃加温)
光線管理 ・最高照度		無遮光	無遮光	無遮光
鉢間隔		鉢物では出荷後に鉢間隔を広げる		
芽かきとリードの仕立て方 (株の状態)		12～1月(芽の整理) 1-2-3 仕立て はマイクロバルブからの新芽を2芽残す  ←1次リード 1-1-2-3 仕立て は生育の止まったバルブは新芽を1芽残す  ←1次リード		2～4月(芽の整理) 1-1-2-3 仕立て は1次リードから出た新芽を2芽残す。 